

薬物政策への効果的で人道的なアプローチ

2025/04/04

国連人権高等弁務官事務所

「いわゆる麻薬戦争は、無数の人びとの生活を破壊し、社会全体にダメージを与えてきた。しかし効果はまったくなく、社会はそれら最も脆弱な集団となった人びとを見捨ててきた」と、ヴォルカー・テュルク国連人権高等弁務官は[最近のスピーチ](#)で述べた。何十年もの間、政府は麻薬を取り締まるために懲罰的なアプローチをとってきた。それによる結果は壊滅的で、監獄の過密化、薬物犯罪への死刑の適用、薬物関連死の増加、違法な薬物生産の広がりなどを招いたと国連専門家たちは[指摘している](#)。しかし、近年は変化がみられる。フィリピン、ガーナ、パキスタン、コロンビアでは刑罰や犯罪化から、公衆衛生や人としての尊厳、人権に焦点を当てたより効果的で人道的なアプローチへとシフトする薬物対策を採用している。高等弁務官は、薬物依存者による自発的な治療、非犯罪化、社会復帰、違法薬物市場の責任ある規制などの変革的アプローチをジェンダーに配慮してとるよう求めている。